

開会のご挨拶



寺澤 捷年 先生

千葉中央メディカルセンター 和漢診療科 部長

1970年 千葉大学医学部 卒業
1979年 富山医科薬科大学 和漢診療部 講師
1982年 同 和漢診療部 助教授
1990年 同 医学部 和漢診療学講座 教授
1999年 富山医科薬科大学 医学部長
2002年 富山医科薬科大学 副学長、同 附属病院長
2005年 千葉大学大学院 医学研究院 和漢診療学講座 教授
2010年 千葉中央メディカルセンター 和漢診療科 部長

日本東洋医学会学術総会のサテライトシンポジウムである『東洋医学シンポジウム』は今回で21回目となります。本シンポジウムの第1回目は、並木正義先生(前 旭川医科大学 第三内科 教授)が座長を務められ、私はシンポジストの一人として登壇させていただきました。第2回からは私がコーディネーターとして、さらに第11回からは後山尚久先生(大阪医科大学健康科学クリニック寄附講座 未病科学・健康生成医学 教授)にコーディネーターをお務めいただき、『こんな時には漢方をー各科別漢方の生かし方ー』をメインテーマに、各診療科から漢方のスペシャリストをお招きして、日常のありふれた症例から、治療に難渋された症例まで、幅広くご紹介いただきました。

昨年の第20回から私が再登板させていただき、テーマは「こんな時には漢方を」のままとし、副題を「私自身が感動した症例」と改めました。今回も、各診療科領域の精鋭5人の先生から、治療者である医師自らが感動した症例をご紹介します。

日常診療で多く遭遇するプライマリーな疾患や病態だけでなく、専門性の高い医療が求められる疾患や病態まで、証に随い適切な治療を行うことで驚くべき効果が得られる症例を多く経験します。これから漢方治療をより深めたいとお考えの先生方だけでなく、漢方をご専門とされるベテランの先生方にも漢方の素晴らしさを再発見していただけるものと思います。